【地区福祉委員会活動】vol.6

「行ってみたい！」を支える

～安心してお出かけできる地域をめざす福祉委員活動～

大阪狭山市 南第一地区福祉委員会

南第一地区福祉委員会（以下、南第一地区）では、「あいさつに始まり、つながり、助け合い、安心して住めるまち」を目標に、地域づくりを進めています。

今回は「大阪狭山市おでかけまっぷ」（以下、マップ）について、作成に込められた思いとともに紹介します。



安心・安全に外出できる地域に ―地区福祉委員会活動実施計画―

大阪狭山市社協（以下、社協）では、市とともに「大阪狭山市地域福祉計画・大阪狭山市地域福祉活動計画」を策定しており、そのなかで、各地区福祉委員会の活動実施計画を立てています。南第一地区は、主にニュータウンとして開発され、当初からの住民が多く高齢化率が比較的高い地域です。実施計画の目標のひとつに、「安心・安全に外出できる地域」を掲げています。

「外へ出て、人や地域とつながるきっかけをつくりたい」そんな思いから、地域を走るバスに着目。

実際にバスで出かけるときに、「何番のバスに乗ればいい？」「このバスに乗ってどこに行けるの？」と迷う声もありました。そこで、バスのルート図だけでなく、「ここで降りたら、こんな場所へ行ける」と分かるマップをつくることになりました。

「行ってみたい」をマップに

マップには「自分たちが行ってみたい場所を紹介しよう」と、南第一地区で話しあいながら、大型商業施設や地域の名所、昔から親しまれている場所などを選定しました。

選定後、取材と会議を繰り返し、みんなで意見を出しながら構成を検討。また、実際にバスに乗り、ルートを確かめ、時刻や経路に間違いがないか、細かなところまで何度もチェック。デザインは、商工会からの紹介で市内のデザイン会社へ依頼しました。

第1版完成直後、バスのルートが増便となるという思いがけない展開があり、急きょ第2版でルートを追加しました。



おでかけまっぷ第1版・第2版

完成したマップは、約2，000部。

表紙をめくった見開きには大型商業施設を掲載。商業施設のショップそれぞれに写真と紹介コメントがあります。次ページからは、市のシンボル「狭山池」の春夏秋冬の写真や、南第一地区のお店の写真を掲載。すべてのページにバスのルート図を記載し、「ここで降りればここに行ける」と、一目でわかるようになっています。バスの時刻表はもちろん裏表紙には全体のバスルートも載せ、マップがあればすぐにバスに乗ってお出かけできるようさまざまな工夫が施されています。

マップは、取材先のお店や社協に置くほか、福祉委員としても活動する民生委員が、高齢者宅を一軒一軒訪問し届けました。





写真つきでおすすめスポットを紹介

実際にマップを見て出かけたという声も届いており、外出のきっかけになっています。他地区の方から「これいいな」と声をかけられることも。小学校の校長先生からは、「子どもたちの学習の参考にしたい」という話もあり、マップを通して、ますます地域の魅力が伝わることが期待されます。

新たな活動も積極的に

南第一地区では、他にもさまざまな活動に取り組んでいますが、今年は新たにフリーマーケットを計画しています。きっかけは、今年度から新たに福祉委員になられた方からの、「若い人も参加しやすい活動があったらいいな」という意見でした。「それならフリーマーケットをやってみたらどう？」と話が進み、小学校へ連絡。開催場所が決まり、準備の真っ最中です。

こうした活動を続ける原動力について、福祉委員の朽木 久美子さんは、「やりたいと思ったことが実現し、それが完成して地域のみなさんに喜んでもらえることがうれしい」と話します。浅野 齊委員長も、「みんなと一緒に何かをつくって、楽しみながら少しずつ実現していくことがやりがい」と話します。

外出を支える もうひとつの取り組み

大阪狭山市では、外出支援として、「さやりんおでかけサポート」にも取り組んでいます。社協が市から委託を受け、運転ボランティアが車で外出をサポートする取り組みです。

マップでは、「行ってみたい場所」への道を分かりやすくし、さやりんおでかけサポートでは、「出かけたいけれど移動が難しい」という人を支えており、それぞれの方法で、住民の外出を後押ししています。

※さやりん：市のマスコットキャラクター。バスにもデザインされています。



左から、大阪狭山市社会福祉協議会 阪本（さかもと） 裕美子（ゆみこ）さん、
南第一地区福祉委員会 光成（みつなり） 裕子（ひろこ）さん、朽木（くちき） 久美子（くみこ）さん、川田（かわた） 千恵子（ちえこ）さん、
都築（つづき） 正男（まさお）さん、浅野（あさの） 齊（ただし）委員長、戸塚（とづか） 久光（ひさみつ）さん

社協担当 職員さんから一言!!

福祉委員のみなさまの『まずはやりたいことをやってみよう！どうせやるなら楽しくやろう！』という、とにかく前向きな気もちが、誰もが安心して暮らせる地域づくりにつながっています。

 この広報紙の作成には共同募金配分金を活用させていただいています